

林野庁 令和5年度林業イノベーションハブ構築事業
林業イノベーションハブセンター（森ハブ）
第2回専門委員会 議事概要

作成日：2023年10月23日

日時	2023年10月20日 10:00~12:00
場所	Microsoft Teams
議題	<ul style="list-style-type: none">➤ 開会<ul style="list-style-type: none">(1) 挨拶：林野庁研究指導課➤ 今年度の林業イノベーションハブ構築事業について➤ テーマ別の実施方針について<ul style="list-style-type: none">(1) テーマ5：森ハブ・プラットフォーム構築(2) テーマ4：森ハブ支援体制構築（地域への伴走支援）(3) テーマ4：森ハブ支援体制構築（森ハブチェックリスト作成）(4) テーマ3：デジタル（コーディネーター派遣、デジタル分科会）(5) 全体を通して➤ 閉会<ul style="list-style-type: none">(1) 今後のスケジュールについて
資料	資料1-1 令和5年度事業概要 資料2-1 テーマ5_森ハブ・プラットフォーム構築 資料2-2 テーマ4_森ハブ支援体制構築（地域への伴走支援） 資料2-3 テーマ4_森ハブ支援体制構築（森ハブチェックリスト作成） 資料2-4 テーマ3_デジタル 資料3 今後のスケジュール

【議事概要】 ※資料記載事項は割愛

1. 開会

(1) 挨拶：林野庁研究指導課

2. 今年度の林業イノベーションハブ構築事業について

3. テーマ別の実施方針について

(1) テーマ5：森ハブ・プラットフォーム構築

- プラットフォームは、会員数ではなくマッチング率や事業化率を目標にするべきである。入会后、真のニーズは何か聞き出して、そこからマッチングにつなげるというような方法で進めなければマッチング相手を見つけることは難しい。
- ほとんどの事業者が困っているのは表面上のニーズであることが多く、本当のニーズを突き止めるコーディネーターが必要である。マッチングイベントを実施しても良いと思うが、本当のニーズかどうかは会社であったら会社の意思決定者にインタビューを行わないといけないのではないかと。イベントでの発表でマッチングができるかもしれないが、発表を聞く人は意思決定者である必要がある。
- 核心のニーズと表向きのニーズの濃淡をどのように見分けるかが重要である。
- 単なるイベントだけではマッチングできないのではないかと。20年前に行ったマッチングイベントでは、1つ1つの事業を見に行き、本当の問題はどこかを聞き出してマッチングしていたが、手間かかるためそういう人材を沢山アサインできるのかを含めて検討しなければならない。
- マッチングイベントでは、発表だけではなくその後5分～10分程度個別相談を実施すると効果的である。個別相談に残る方は本当にイノベーションを起こしたいと考えている方である。
- コーディネーター像については、林業や技術の専門家ではなく異分野や文系の方でも良いと考える。あとは人柄として、5秒で相手の懐に入れるような方であることが重要である。
- マッチングイベントで出来るイノベーションは、おそらく業務改善レベルが多いと思う。コーディネーターをつけるのであれば、どちらかという和林業に携わっている方ではなく、経営に詳しい方などの方がいいのではないかと。
- ニーズを出す側もシーズを出す側も、出した後は待ちの姿勢になってしまい、何も起こらない。双方向の仕組みを作って、お互いが当事者意識を持ってもらうことが重要である。フィードバックを促す仕組みとして、ニーズに対してできることはないかを企業に投げかけ、間に立って仲介する役割を事務局で担うのがいいのではないかと。双方向にやり取りができるように促す仕組みを導入する必要がある。
- アンケート結果のニーズをもとに、分野別に小分けしたマッチングイベントを行った方が良いのではないかと。

(2) テーマ4：森ハブ支援体制構築（地域への伴走支援）

- コーディネーターと地域のコアプレイヤーの連携・協同について、第1回専門委員会で疑問が投げかけられた部分である。次回委員会に向け掘り下げていただきたい。
- 現場の意見を聞いて問題に対処するアプローチを行うと、仕事の精度が高くなり、生産性も上

がっていくが、生産性が上がったことが本当に地域のためになるか疑問である。業務改善や生産性を上げるだけでは、材木の値段が下がるだけである。そうではなく、新しいマーケットを取りに行くことを目標に置かないと難しいのではないかと。目的の明確化とマーケットメイクを結びつける必要があるのではないかと。

- 今回の派遣地域のコアプレイヤーは、どのような方がどのようなことに取り組んでいるのか。森ハブで支援するためには、地域をこういう風に変えたいという熱意のある人が発言していかないと、支援対象に上がってこないのではないかと。
- 今回のコーディネーター派遣にあたり、当初に設定した目的に対して、実際の取組による目的の達成度を評価すべきではないかと。ここに出てきた課題は他の地域でも同じように起こる可能性が高い。今回出てきた課題を明確化することと、今後その課題に対してどのように対応するのかシナリオを作っていくことが重要である。

(3) テーマ4：森ハブ支援体制構築（森ハブチェックリスト作成）

- チェックリストについて、項目を絞りブラッシュアップしていくプロセスだが、今後他の地域で使う場合にどのような形とするか検討が必要である。

(4) テーマ3：デジタル（コーディネーター派遣、デジタル分科会）

- 合板工場への納品伝票のデジタル化、集計の省力化は重要な取組である。
- サプライチェーン全体のアーキテクチャー設計をどこかのタイミングで行った方が良い。

(5) 全体を通して

- 大きな目標を立てながら着実に実績を出し、まずは林業イノベーションへの取組を継続できる環境を作ることが重要である。
- プラットフォームにどういう方々が参画するかについても大きな要素である。林業を主語にせず、個別のテーマを発信することによって、新しい価値の構築が生まれるのではないかと。
- 現在分科会でデジタルと機械開発があるが、炭素源の再生可能エネルギーに着目したテーマとして、もう1つグリーン関係のテーマがあってもよいのではないかと。

4. 閉会

(1) 今後のスケジュールについて：事務局から説明

以上